

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

学校名【 新城市立千郷小学校 】

1 実践テーマ	【 IV・V 】
2 実施対象者	第5学年 松組・竹組 79名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ 体育 ）</p> <p>② 行事名（ ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p>
4 目標 (ねらい)	<p>自国で行われるオリンピック・パラリンピックについての興味を高めると同時に、広く様々な競技について知る機会とする。また、本校の特別支援学級に在籍している児童も、仲間とともに作戦を立てたり、戦術を考えたりしながら、運動に取り組む機会とする。</p>
5 取組内容	<p>(1) 事前学習（各教室にてスポーツ庁発行の『オリンピック・パラリンピックに関する指導参考資料』を活用して）</p> <p>① オリンピック・パラリンピックの歴史や意義 オリンピック・パラリンピックが始まった経緯や歴史、理念について、本校教諭による授業を行った。また、実践に向けて、オリンピック・パラリンピックについて、児童の意識を掘り起こす掲示物の工夫を行った。</p> <p>② ボッチャという競技について 特別支援学級で行っているボッチャに似たゲームを紹介し、ボッチャはパラリンピックの正式種目でありながら、老若男女、障がいの有無に関わらず、全ての人と一緒に競い合える競技であることを学んだ。</p> <p>(2) 実践（本校体育館にて）</p> <p>○ 講師の先生による講話・実演・ゲーム 「Enjoy☆ボッチャ」代表の鈴木祥子先生をお迎えし、ボッチャという競技の魅力について深く知ると同時に、競技の方法やルールを知った。また、講師の先生に実演していただいた。</p>

① 講師自己紹介

特別支援学校での教員生活とその中でポッチャとの出会いについて、キャリア教育の観点からも話をいただいた。



② パラリンピックの楽しみ方について

パラリンピックの正式種目であること、障がいによってクラス分けがされていること、何より誰もが等しく、同じように楽しめることを教えていただいた。「ランプ」と呼ばれる道具を使い、投げることが十分にできない人でも競技に参加できる工夫があることを知った。

③ ポッチャその1「ボールで遊ぼう」

ポッチャボールに親しむために、ボールを遠くに転がす、高く投げる遊びを行った。

④ ポッチャその2「ボールを投げてみよう」

ポッチャボールで目標物(ペットボトル)を倒したり、目標値(キャラクター)の前で止めたりする遊びを行った。



⑤ ポッチャその3「ルールとゲーム」

担任の実演、簡単なルールの説明を行い、ゲームを行った。審判を自分たちで行い、できる範囲でルールに従ってゲームを進めた(自分たちでオリジナルルールを決めてもよい)。



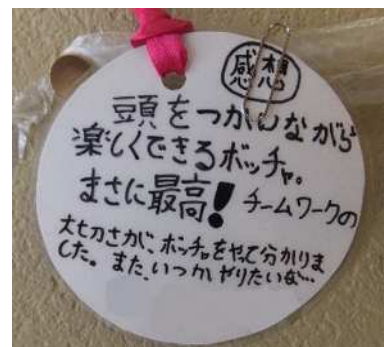
⑥ 振り返り

簡単なクイズ形式で振り返りを行った。

(3) 事後学習(各教室にて)

① 振り返り

体験で得たことを振り返り、仲間とその思いを共有した。また、講師の先生が用意してくださったカードに感想を書き、それを掲示することで、さらに思いの共有を図り、意識を継続することができた。



	<p>② 意識の継続（体育授業等への展開）</p> <p>教師が、今回の実践を校内で紹介し、ボッチャの魅力を広めることで、今後の体育授業として取り入れる教材開発やクラブ活動、学校レクリエーションとして活動できる可能性を探った。</p>
6 主な成果	<p>児童は今までに経験のないスポーツと出会い、そのスポーツの魅力、可能性を感じ取ることができた。スポーツというと、体格が勝っているとか、体力が高い人が有利であるという感覚から、ボッチャを経験することで、誰もが等しく競技することができ、障がいの有無に関わらず取り組むよさがあることを知った。これこそ、多様性を尊重する態度、スポーツを楽しむ心の育成につながると感じた。</p>
7 実践において工夫した点（事業の特色）	<p>パラリンピックの正式競技であるボッチャを取り上げることで、本校の特別支援学級に所属する児童が、仲間と一緒に体育の授業を受けることができた。普段の体育の授業は、自作のボッチャをやったり、ミニPKサッカーをしていたりしたが、本事業でお互いに戦術を考えたり、励まし合ったりしながら取り組むことができた。また、特別支援学級の児童は、活躍を仲間から認められることで、様々なことが自分にもできるという自信にもつながった。</p>
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • この取組や意識を継続させるためにも、今後もボッチャ競技を実践していきたいのだが、道具がなく、さらに道具が高価なため、続けることができない。 • 講師の先生を招いた実践時間が1時間30分程度であり、児童はもっとゲームを体験したい様子であった。もう少し時間を確保できるとよかった。
9 来年度以降の実施予定	<p>ゴール型ゲームとして体育の授業に取り入れる教材開発を進めていく。また、クラブ活動や学校レクリエーションとして活動できる可能性を探り、道具等の確保ができれば、実践をしていきたいと考えている。</p>